

カップリング・インターンシップ(CIS)2026 活動報告(タイ)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

8月9日～8月18日(移動含む)の期間、タイにてカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。タイでの現地実施は、コロナ禍におけるオンライン実施(2020年、2021年)を経て、2019年以来となりました。今回受け入れていただいた OTC Daihen Asia (OTCDA)との連携はオンライン実施を含め、2013年度のCIS開始以降9回目となりました。

参加学生は、大阪大学から工学研究科2名、外国語学部1名、人文学研究科1名、キングモンクット王工科大学トンプリ校(KMUTT)から工学部3名、科学部1名の計8名でした。CIS実施中は本学学生及びKMUTT学生も同じホテルに滞在し、終日活動を共にしました。

CIS開始1日目は滞在先のホテルにて事前研修を実施し、初めて顔を合わせる両大学学生同士のアイスブレイクの時間と、企業から頂戴したCIS課題“The Future of Work in Manufacturing - Skills, Culture & Technology”について、各学生が事前に各自で調査、整理した内容をチームメートと共有、協議する時間とを持ちました。

8月10日～14日(8月12日はタイ休日のためホテルにて研修)の4日間はOTCDAにて、企業紹介、工場見学、日本人駐在員、タイマネージャー、各部署の社員様とのインタビューなどを行いました。また、技術的な学習では、各種溶接プロセスの講義、溶接の実習、溶接ロボット操作の実習など、座学と実践を組み合わせた充実したご指導をいただきました。

これらの活動を通じ、学生たちは今回頂戴したCIS課題である“The Future of Work in Manufacturing - Skills, Culture & Technology”について情報を収集し、製造業を肌で感じ、チームで考察しました。

8月17日(月)には、KMUTT内で最終報告会を行い、OTCDAからは山口社長、門田副社長他、工場長やタイ人マネージャー等を含む11名の皆様にご参加いただきました。また、KMUTTからは学長、Dr. Suvit Saetia、国際担当副学長 Dr. Chawin Chantarasenawong 他、参加学生の指導教官、KINGWELD 溶接コンサルティングセンター教員、KMUTT へ留学中の本学学生など多く

の方にご参加いただきました。

学生は2チームに分かれ、一般的に製造業が抱える課題から絞り込み、OTCDAにおいて実施されている取り組み・対策、考えられる課題について分析しました。製造の自動化が進められている現場での作業者の今後、自動化された際の技術課題などにも言及がありました。特に今回、学生が引き続き強化すべき取り組みとして着目したのが同社で取り組まれている「改善活動」でした。各チームからは、活動参画へのモチベーション向上のための提案や、AIやデータ化による「改善活動」への活用などの提案もありました。

学生達は、日中の企業実習活動後に日々収集した情報の共有や整理をチームで行い、その後は限られた時間ですが、宿泊先周辺を散策するなどしてタイの文化も楽しみました。また、週末1日は、サンデーマーケット、寺院、若者が多く集う中華街のアート通り(カフェやショップ等)、水上バス、チャオプラヤ川沿いの巨大ショッピングモールなどを散策し、文化体験を満喫しました。

CISは10日間という短期活動ですが、英語を中心とした、異文化・異分野の仲間との協働、そして同じ目標(課題への対策検討)に向けてチームで取り組む集中した活動内容のため、参加学生にとっては多くの困難も伴います。しかし、学生からは「参加した仲間とは終始共に時間を過ごすことで、お互いを深く理解し信頼し合えるので、チームワークで困難な場面があっても、不安や心配はなかった」、「OTCDAの皆様が学生の質問への回答や、技術指導で、真摯な姿勢で熱心に対応してくださったことが強く心に響き、自分たちも頑張ろうと思いました」等のコメントもあり、実体験でしか得られない貴重な学びを得ていることが分かります。本活動は、受入れ企業及び海外連携大学のご協力なくしては成り立ちません。改めて、温かく受け入れていただいたOTCDAの皆様、そしてご連携いただいたKMUTTの皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

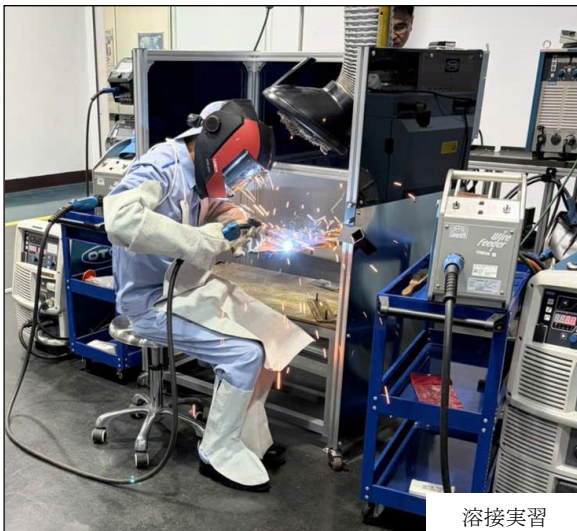
(写真次ページに続く)



インタビュー



ロボット操作実習



溶接実習



暁の寺訪問



最終報告会后